

みずほマーケット・トピック (2019年7月5日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向 2. 来週の注目材料
誠に恐れ入りますが「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

1. 為替相場の動向 (関連レポート: 「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は週半ばにかけて下落する展開。週初1日、108円台前半でオープンしたドル/円は、米中通商協議の再開にリスク回避の動きが後退すると、一時週高値となる108.53円をつけたが、新規材料に乏しい中108円台前半で小動きに。翌2日は、米金利の低下やプーチン露大統領が露国防相と緊急会談との報道にリスク回避ムードが強まり、ドル/円は107円台後半まで下落した。3日にかけても米金利低下が継続する中、ドル/円は一時週安値となる107.54円まで値を下げた。その後NYダウ平均が堅調に推移すると、ドル/円は107円台後半に反発したが、米6月ISM非製造業景気指数の悪化に再びドル売りが強まり107円台後半で上値重く推移した。4日は、NY休場となる中で、ドル/円は終始107円台後半で動意に乏しくレンジ狭く推移した。本日のドル/円は米6月雇用統計の発表を控え、107円台後半で小動きとなっている。
- 今週のユーロ/ドル相場は下落する展開。週初1日に1.13台後半でオープンしたユーロ/ドルは、一時週高値となる1.1371をつけるも、米金利上昇を受けたドル買戻しの動きに1.13台前半まで下落し、その後もドル買いが継続し、2日にかけて1.12台後半まで値を下げた。ECB政策担当者は「7月に急いで利下げする必要がないと見ている」との報じられるとユーロ/ドルは1.13台前半まで反発したが、ECBの次期総裁にラガルドIMF専務理事が浮上との報道に1.13付近まで反落。3日は、独10年債利回りが過去最低水準まで低下したことを嫌気すると、ユーロ/ドルは一時週安値となる1.1268をつけた。その後トランプ米大統領が、欧州が為替操作を行っているとして非難したことを受けてユーロ買いが強まると、ユーロ/ドルは1.13台前半まで反発したものの、直ぐに1.12台後半に売り戻された。4日はNY休場となる中で特段材料に乏しく、ユーロ/ドルは1.12台後半で小動き。本日のユーロ/ドルも1.12台後半で動意に乏しい推移が継続している。

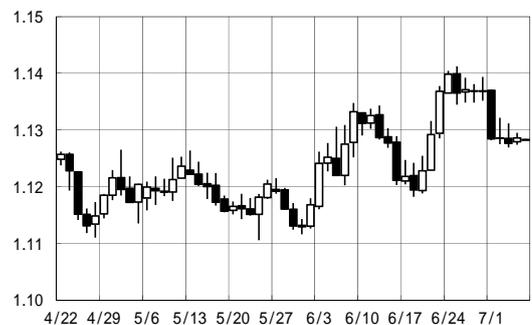
今週のおもな金融市場動向 (出所: ブルームバーグ、みずほ銀行)

ドル/円相場の動向

		前週末	今 週			
		6/28(Fri)	7/1(Mon)	7/2(Tue)	7/3(Wed)	7/4(Thu)
ドル/円	東京9:00	107.76	108.38	108.38	107.83	107.76
	High	107.95	108.53	108.47	107.92	107.84
	Low	107.57	108.08	107.77	107.54	107.71
	NY 17:00	107.93	108.44	107.90	107.85	107.84
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1372	1.1360	1.1287	1.1291	1.1287
	High	1.1394	1.1371	1.1322	1.1312	1.1295
	Low	1.1351	1.1281	1.1275	1.1268	1.1274
	NY 17:00	1.1368	1.1284	1.1285	1.1277	1.1286
ユーロ/円	東京9:00	122.54	123.10	122.32	121.73	121.64
	High	122.79	123.34	122.53	121.81	121.71
	Low	122.28	122.36	121.75	121.32	121.55
	NY 17:00	122.70	122.36	121.80	121.60	121.64
日経平均株価	21,275.92	21,729.97	21,754.27	21,638.16	21,702.45	
TOPIX	1,551.14	1,584.85	1,589.84	1,579.54	1,589.78	
NYダウ工業株30種平均	26,599.96	26,717.43	26,786.68	26,966.00	-	
NASDAQ	8,006.24	8,091.16	8,109.09	8,170.23	-	
日本10年債	-0.16%	-0.15%	-0.14%	-0.16%	-0.16%	
米国10年債	2.01%	2.03%	1.97%	1.95%	-	
原油価格(WTI)	58.47	59.09	56.25	57.34	-	
金(NY)	1,413.70	1,389.30	1,408.00	1,420.90	-	



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- ・ 米国では、今晚に6月雇用統計が発表される。5月の非農業部門雇用者数は前月比+7.5万人と市場予想(同+17.5万人)を大きく下回ったほか、過去2か月分(3月および4月)の修正値が7.5万人となり、統計上の雇用者数は事実上前月から変化がないという結果となった。市場では6月の非農業部門雇用者数は前月比+16.0万人と5月からの反動が予想されている。また、失業率については3.6%、平均時給は前年比+3.2%と5月からほぼ横ばいとなる予想だ。もっとも、下振れのリスクには注意しておきたい。米中協議の不調の結果(追加関税率引き上げやエンティティリストといった非関税措置等)に対する企業の懸念が雇用面で表れてきている可能性はある。実際、新規失業保険件数や失業保険継続受給者数は歴史的に低水準ながらも底打ち感がみられる。また、6月ISM非製造業指数(4日)では雇用指数が大きく低下した。
- ・ 金融政策関連では、10日(水)にFOMC議事要旨(6月18~19日開催分)が公表される。同会合においては、政策金利が据え置かれたものの、声明文から「政策金利調整には、忍耐強く臨む」との文言を削除。「不確実性の高まりに伴う経済見通しへの影響に適切に行動する」との文言を追加し、利下げの可能性を示唆した。FOMC参加者の政策金利の見通し(いわゆるドットチャートの形状)も3月会合から大きく変化しており、少なくとも次の一手は利下げということがうかがえる。議事要旨では、大方の市場参加者の期待通り、次回FOMC(7月30~31日)で利下げが行われるのか、追加の手掛かりを探ることになる。また、10~11日の日程で、パウエルFRB議長の半期議会証言も予定されている。6月FOMC後の会見時と比較してパウエル議長のスタンスに変化がみられるか注目される。
- ・ 欧州では10日(水)、欧州委員会の夏季経済予測(秋季予測を控えての中間見直しの位置付け)が発表される。5月に発表された春季予測ではドイツ等の域内主要国を中心に2019年成長率見通しの下方修正が目立った。2020年成長率見通しについては小幅な下方修正にとどまったものの、その後ECBがフォワードガイダンスを2020年半ばまで延長したことを考慮すると、2020年については下方修正の可能性が高そうだ。

	本 邦	海 外
7月5日(金)	・5月景気動向指数(速報)	・独5月製造業受注 ・米6月雇用統計
8日(月)	・5月国際収支 ・5月機械受注 ・6月景気ウォッチャー調査	・独5月鉱工業生産
9日(火)	・5月毎月勤労統計 ・6月マネーストック ・6月工作機械受注(速報)	・米6月NFIB中小企業楽観指数
10日(水)	・6月国内企業物価指数	・欧州委員会の夏季経済予測 ・米FRB議長の議会証言(下院) ・FOMC議事録(6月18~19日開催)
11日(木)	・5月第3次産業活動指数	・独5月CPI(確報) ・米6月CPI ・米FRB議長の議会証言(上院) ・米6月財政収支
12日(金)	・5月鉱工業生産(確報)	・米6月PPI

【当面の主要行事日程(2019年7月~)】

ECB政策理事会(7月25日、9月12日、10月24日)
 日銀金融政策決定会合(7月29~30日、9月18~19日、10月30~31日)
 米FOMC(7月30~31日、9月17~18日、10月29~30日)
 IMF世界経済見通し改訂版(7月中)

国際為替部
 チーフマーケット・エコノミスト
 唐鎌 大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2019年7月3日	ラガルドECB総裁就任の読み方
2019年7月2日	日銀短観の読み方～「底入れ」は確認できず～
2019年7月1日	大阪G20を終えて～円相場を駆動するのは株価ではなく金利～
2019年6月28日	週末版
2019年6月26日	円安リスクの点検～大統領選前にトランプは動くか～
2019年6月25日	対外資産・負債残高の近況～令和で経験する大きな変化～
2019年6月24日	利下げ期待とドル/円相場の関係～「98年型利下げ」としても～
2019年6月21日	週末版(日銀金融政策決定会合を終えて～「ドル高の修正」という大きな潮流～)
2019年6月20日	FOMCを終えて～「鏡に映った自分」に怒り続ける大統領～
2019年6月19日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年5月分)
2019年6月19日	為替市場と金利市場の期待格差について
2019年6月14日	週末版(日銀金融政策決定会合プレビュー～サプライズがあるとすれば・・・)
2019年6月13日	厳しい緩和競争が予想される日欧中銀
2019年6月12日	FRBと金融市場の「接待関係」は持続可能なのか?
2019年6月11日	ユーロ高を警戒し始めたECB～通貨安欲しさに利下げ?～
2019年6月10日	利下げを促す米雇用・賃金情勢～6月利下げも?～
2019年6月7日	週末版(ECB政策理事会を終えて～シントラから2年で振り出しに戻ったECB～)
2019年6月6日	次のカリストとしての中国の外貨準備
2019年6月5日	虚しい「フォワードルッキングな政策運営」
2019年6月4日	ECB政策理事会プレビュー～TLTRO3詳細発表へ～
2019年6月3日	「利下げタイミングを当てるゲーム」が始まりそう
2019年5月31日	週末版
2019年5月29日	米為替政策報告書を受けて～ドル高への不満も～
2019年5月28日	円安リスクの点検～円高リスク高まった5月～
2019年5月27日	ECB政策理事会議事要旨～衰える基本シナリオの信認～
2019年5月24日	週末版
2019年5月23日	プレジデントQ&A～メイ辞任、再国民投票、勝負の6月～
2019年5月22日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年4月分)
2019年5月21日	ユーロ相場の需給と「ドルしか買えない」状況
2019年5月20日	「ドル=7.00」の攻防再び
2019年5月17日	週末版(円相場の需給環境について～建値通貨別でユーロ建て証券投資が過去最大に～)
2019年5月15日	景気動向指数の「悪化」判断と増税の先行きについて
2019年5月14日	関税引き上げと通貨安～元安対抗にも限界あり～
2019年5月13日	米中協議は実質決裂へ～舞台は大阪G20へ?～
2019年5月10日	週末版(「中央銀行の独立性」とトランプの口先介入～「失言」と割り切って良いのか?～)
2019年5月9日	「相応の理由」なき投機のドル買いはいつまで続くか
2019年5月7日	追加関税騒動について～半年間の努力はどこへ～
2019年4月26日	週末版
2019年4月24日	薄氷のドル高相場～賭けるべき「次の一手」は～
2019年4月23日	10連休を契機に考える休日増加の功罪
2019年4月22日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年3月分)
2019年4月19日	円安リスクの点検～年後半は「米国 vs. 欧中」～
2019年4月19日	週末版(ユーロ圏PMIを受けて～「底打ち」しても正常化は別の話～)
2019年4月18日	ドル高を容認できない中国の経常収支
2019年4月17日	相次ぐECBの「次の一手」に関するヒント
2019年4月16日	「改善の極み」を指摘したIMF～循環的なピーク～
2019年4月15日	ECB政策理事会～階層化とTLTRO3の取り扱い～
2019年4月12日	週末版(やはり直面した「欧州らしい結末」～臨時EU首脳会議を受けて～)
2019年4月10日	IMF世界経済見通し～「副題」で見る世界経済の変遷～
2019年4月9日	円相場の基礎的需給環境～「均衡」がもたらすレンジ～
2019年4月8日	プレジデント情勢を巡るQ&A～臨時首脳会議を前に～
2019年4月5日	週末版(ドイツがけん引するユーロ圏の減速～大崩れしたドイツ製造業受注～)
2019年4月4日	外貨準備構成通貨の現状(18年12月末)
2019年4月3日	ECBはマイナス金利を階層化するのか?
2019年4月2日	円高を阻む経常収支構造の変化
2019年4月1日	「恵まれた為替環境」を再確認した内閣府調査
2019年3月29日	週末版
2019年3月26日	円安リスクの点検～改めて考える円安リスク～
2019年3月25日	「自分の尾を追う犬」となったFRBと景気後退の考え方
2019年3月22日	週末版(コミュニケーションが荒れ始めたFRB～本末転倒感の拭えないドットチャート～)
2019年3月20日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年2月分)
2019年3月18日	「ユーロ圏の日本化」の正しい読み方
2019年3月15日	週末版(プレジデント交渉、当面の読み方～人質戦略は奏功するのか?～)
2019年3月14日	「地方の南欧化」を想起させる業種別一律最低賃金
2019年3月13日	プレジデント、「2度目の否決」と「新たな期限」
2019年3月12日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2019年1月分)
2019年3月8日	週末版(ECB政策理事会を終えて～ドラギ総裁は1度も利上げできずに退任へ～)
2019年3月5日	米金利上昇&ドル高を阻む「ドル化した世界」
2019年3月4日	大統領のドル高けん制～不安な「相手国が悪い」という理屈～
2019年3月1日	週末版(金融政策格差に落ち着いた年初の2か月間～互いに「住む世界が違う」様相～)
2019年2月27日	米中貿易協議再延期を受けて～現状と展望の整理～
2019年2月25日	円安リスクの点検～想定外の米経済堅調が招く円安～
2019年2月22日	週末版
2019年2月21日	FOMC議事要旨～「patient」の舞台裏～
2019年2月20日	自動車関税を前に考える日欧の立ち位置
2019年2月18日	停滞する日米欧中銀への期待と為替相場
2019年2月15日	週末版(米小売売上高ショックをどう読むか?～懸念される逆資産効果～)
2019年2月14日	看過できない仏伊関係の悪化～大戦以来の大使召還～
2019年2月13日	ドル/円相場は新常态にあるのか?
2019年2月12日	変わりそうにない対外直接投資の潮流
2019年2月8日	週末版(2018年の円相場の基礎的需給環境～対外証券投資への期待は難しそうな2019年～)
2019年2月7日	次期ECB総裁レースの現状整理
2019年2月6日	バイマン独連銀総裁も認める景気減速の現状
2019年2月5日	プレジデント交渉を巡るQ&A～今一度行う現状整理～
2019年2月1日	週末版
2019年1月31日	FOMCを受けて～正常化プロセスの終了～
2019年1月29日	「株価ファースト」という誤解を招きかねないB/S縮小戦略
2019年1月28日	円安リスクの点検～円高のメインシナリオを握るがすもの～
2019年1月25日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「年内利上げ無し」を暗に認めたドラギ総裁～)
2019年1月24日	日銀金融政策決定会合を受けて～「願望」すら難しい状況に～